
精神保健看護

報告者：大川 嶺子

教育及び実践の課題

自殺者数は平成8年に年間3万人を突破し、以降横ばい状態で改善が困難な状況である。自殺の原因としては経済、生活、健康などがあげられており、うつが自殺企図にいたる直接の原因としてうつ予防と早期の対策が推進されている。自殺のリスク要因と自殺防止については授業で取り上げ、うつとの関連について強調してきた。一方、子ども時代の虐待や、家庭の機能不全と自殺企図との関連についても以前から指摘されてきたところであり授業で取り上げてきたが、確実なデータに基づいた授業は行えていなかった。

活用した論文の概要

自殺企図と子ども時代の虐待等の経験との関係を明確にすることを目的に、精神保健関連機関の利用者約17,000名を対象に行われた後ろ向き調査研究である。虐待等を体験した対象者では、体験しなかった対象と比較して自殺企図は2から5倍であり、情緒面・行動面でも問題を持ちやすいことが報告された。

教育及び実践への活用

この研究は、多くの人たちが漠然と理解していた子ども時代の虐待等と生涯にわたるメンタルヘルスの関連性を明確に示している。広く精神保健に関する講義を行う精神保健看護Iにおいて、心理的・身体的虐待など家庭の精神保健に焦点をあてて、子ども時代の不幸な出来事と生涯にわたるメンタルヘルスの関連を伝え、ライフステージでの発達課題の達成や情緒的に健康な人間についての情報を追加した。

参考文献*

Dube S, Anda .R, Felitti V, Chapman D, Williamson D, Giles W (2001) : Childhood Abuse, Household Dysfunction, and the risk of Attempted Suicide throughout the life span, Journal of the American Medical Association, 286(24), 3089-3096.
